

台風十の号

急にがたくとくずれて行く身辺の型

台木足並をうたてやうて来た

活法^レつうくは^レその辺知^ラてい^ハ

以^テ前^ノころ^ニ石^ノ子^ノ深^クい^所

今^ハも^ウ知^リあ^いは^いな^い

た^のと^ニ思^い出^かや^つて^来る

外^をあ^けて^やら

危^あけ^テ前^に暗^い

雨^はふ^つて^いな^い

新幹線は止^つて^いる

この辺は^ニ下^つて^度に^なる^のと^いふ

この杯^子は^私の^心の^中の^{もの}だ

身^辺の^活も^手に^台風^だ

そんな^時に^静か^に深^く呼^吸を^して^いる

明日^はも^あら^ば温^体の^急に^なる^のと^いふ

何^もあ^らず^にも^時に^解決^して^いる

現在^にこの^地は^紅も^なさ^ずて^いる

心^配し^ても^何も^なら^ず

い^つも^の朝^が来^る

とく一履 外を見ろ

雨不ふつ 石形跡 木身

妙き水おの葉木 つゆをふとしていろ

玄圃茶 氷石茶うたなつていろ

肉茶もくばうせし 千々 十加ノ 上注意

9 = 五ノス

このごろの台向の通の通は

以茶のふうろコースでさうし

かまんしていと呉窓をまらしりかう

ふさ子つて行く

明日をふとろ

2022
9/24